

岩波ホール発

アンコール公演 第四弾

白石加代子「百物語」

構成・演出 | 鴨下信一

出演 | 白石加代子

宮部みゆき「小袖の手」

朱川湊人「栞の恋」



Designed by charhan ramone

まだ間に合います。これからが「百物語」最終便!!

2022.11.18(金) 開演 18:30 (開場17:45)

秩父宮記念市民会館 大ホールフォレスト



文化庁

【主催】 秩父市
【助成】 文化庁文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）
独立行政法人日本芸術文化振興会

【問】 秩父宮記念市民会館 TEL0494-24-6000 (9:00~18:00 火曜日休館)

企画・製作 メジャーリーグ

口の中に広がる何とも言えない、美味な味。

笑いも涙も、苦味も旨味も、

人生の味わいがたっぷりのグルメな二本立て

白石加代子「百物語」

構成・演出 | 鴨下信一 出演 | 白石加代子

宮部みゆき「小袖の手」
朱川湊人「栞の恋」

——妖しく、愛しい袖

このシリーズで取り上げていただいた拙作「小袖の手」は、私がまだ作家として駆け出しのころの作品です。初演の際、客席であやうく涙しそうになりました。それほど嬉しかったし、深く感動しました。

数百人の観客を前に、舞台上で語る白石さんは、たった一人です。でも本当は、白石さんの後ろに大勢の語り部たちがいる。遙か古の時代から、嘗々と怪談を語り継いできた人びとの魂がついているのです。そのなかには、江戸の間、江戸の怪異を語っていた人びとの魂もありました。私が作品のネタにした着物の袖よりも、舞台の上の白石さんの着物の袖の方が、はるかに豊穡で神秘的な幻想と怪異を隠していました。語りながら白石さんが袖をひるがえすと、その断片がひらり、はらりとこぼれ落ちるのが見えました。

私が江戸怪談に魅入られ、憑かれたように書き続けるようになった理由を、察していただけるでしょう。駆け出しの身で、こんな贅沢で劇的な体験をしてしまった以上、もう逃げられません。

というわけで、白石さんには責任をとっていただきたく——私は今日も、「また舞台上で読んでもらえるといいな」と思いつつ、江戸怪談を書くのです」

宮部みゆき

(白石加代子「百物語」シリーズ第二十九夜「お文の影」「ばんば悪き」パンフレット原稿より転載)

——ミラーボールのような百面体の心

私にとって白石加代子さんは、長い間、「怖い人」であった。

その演技に初めて接したのは金田一耕助シリーズの映画だったが、当時は中高生だったので、「何だか映ってるだけで、迫力がある人だなあ」くらいの認識しか持っていなかった。しかし、その後ビデオで『女囚さそり 第41 雑居房』を見て、そう感じたのは気の迷いでなかったと強く実感した。その劇中の白石さんは、まさしく迫力の塊であったからだ。本当に何かが憑りついているとしか思えない演技で、「役が憑依してしまう役者さんがいると言うけど、ちょっと憑き過ぎなのでは」と、こちらが心配になってしまふくらいだ。

以来、白石さんを“怖い人”と思いつけてきたのであるが、言うまでもなく、それは大きな間違いである。何のことはない、単に私が演劇に疎く、舞台の上の白石さんを見る機会を持てなかっただけのことだ。

拙作の「栞の恋」を百物語の演目を選んでいただき、その舞台を拝見した際に私はそれを思い知り、己の考えの浅さを恥ずかしく思った。その時に感じた通りと言えば、白石さんの舞台は、“ちょっとばかり何かに憑かれたくらいで、できるものではない”ということだ。もしかすると白石さんの中に何十通りもの白石さんがいるか、あるいはミラーボールのような百面体の心を持っているのかもしれない——そう考えることで私は自分を納得させたが、その時から白石さんは、もう“怖い人”ではなくなってしまった。

是非みなさんにも、おちやめで可愛くて、黒目がちでおさげが似合う白石さんをご覧ください。

朱川湊人

《公演ホームページ》 <https://ml-geki.com/hyakumonogatari2022/>

※最新情報は公演ホームページにてご確認ください。



照明 | 阿部康子 音響 | 清水麻理子 衣裳 | 池田洋子・江幡洋子 結髪 | 笹部純・柴崎尚子 演出助手 | 平井由紀 舞台監督 | 矢島健 宣伝美術 | チャーハン・ラモーン
広報 | 横島多美枝 制作 | 児玉ひろみ 協力 | 一般社団法人舞台芸術共同企画 hairmake Pure 株式会社スタジオオーデュボン
プロデューサー | 笹部博司 企画・製作 | 株式会社メジャーリーグ

2022年11月18日(金) 開演 18:30 (開場 17:45)

秩父宮記念市民会館 大ホールフォレスト

【全席指定】一般: 4,000円 / 高校生以下: 2,500円

※未就学児の入場はご遠慮ください。

【チケット発売日】2022年9月11日(日) 10:00

【電話予約】チケット専用電話 0494-23-2294 (9:00~18:00 火曜日休館)

※予約後、翌日から2週間以内に市民会館ホール事務室にてチケットをお引き取りください。座席選択はできません。

【窓口販売】市民会館ホール事務室 (9:00~18:00 火曜日休館)

※翌日(9/12)以降、残券がある場合のみ取り扱い。

【チケットぴあ】 <https://t.pia.jp/> (Pコード: 513-446)

※座席選択はできません。

【感染症対策のご案内】

秩父宮記念市民会館では、新型コロナウイルス感染拡大予防の対策を行い、公演を実施いたします。また、今後の感染状況によっては、公演内容に変更が生じる場合がございます。予めご了承ください。

【交通アクセス】

〒368-8686 埼玉県秩父市熊木町8-15

<https://ccbhall.saitama.jp/>

■西武鉄道 西武秩父駅から徒歩5分

■秩父鉄道 御花畑駅から徒歩3分 秩父駅から徒歩15分

※駐車場には限りがございますので、公共交通機関をご利用ください。

